

平成7年度第5回企画展

珠玉の陶芸

いたや はざん 「板谷波山」展

明治末から昭和の前半にかけて活躍した板谷波山(1872—1963)は、近代陶芸のパイオニアとして高く評価されています。本展は波山の没後最大の回顧展です。

板谷波山は茨城県下館市に生まれ、はじめ東京美術学校の彫刻科に学びました。後に苦勞して窯を築き、意欲的な作品を次々に発表していきました。中でもアール・ヌーヴォーからアジアの染織模様にしたる様々なデザインを研究し、陶磁器の意匠改革をなしたことは評価されています。また一方では、新しくもたらされた西洋の焼成、釉薬の実験に取り組み、「葆光彩磁」を生み出しました。葆光彩磁は、薄肉彫りを施した磁器の表面に下絵付けし、その上からヴェールのような半透明の釉薬を掛ける方法で、その格調の高い美しさは比類のないものです。波山はこれらの新しい試みによって、絵画、彫刻と肩を並べる芸術表現を可能にしました。

なお、作陶を陰で支えたまる夫人は会津坂下町出身であり、波山は本県にゆかりの作家といえるでしょう。

本展では葆光彩磁、白磁、青磁、天目から西洋のマジョリカ写しまでの代表作品約130点と図案研究の跡を示すデッサン類によって、波山芸術の全貌をご紹介します。

観覧料 一般・大学生 820円(660円)
高校生 610円(460円)
小・中学生 410円(300円)
※()内は20名以上の団体

■講演会■

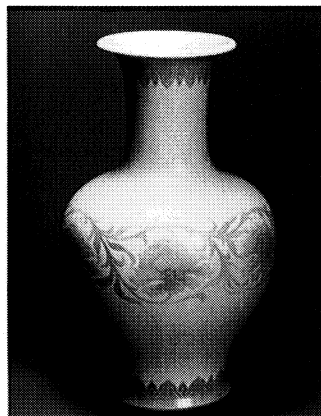
「板谷波山の陶芸」

長谷部 満彦

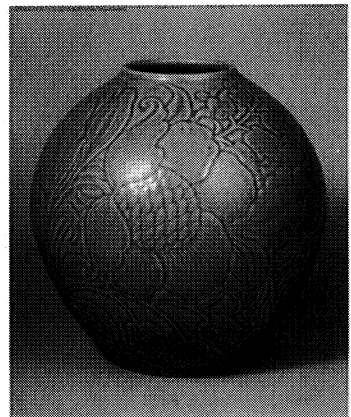
(県立美術館長)

11/3(金) 14:00~

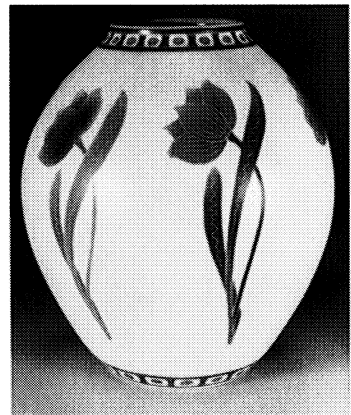
美術館講堂にて(聴講自由)



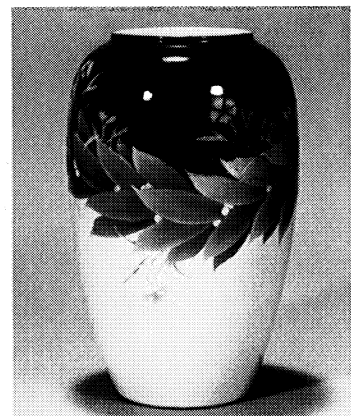
葆光彩磁牡丹唐草花瓶
1930年 敦井美術館蔵



葆光青磁唐花彫文花瓶
1920~22年



葆光彩磁チューリップ文花瓶
1917年頃 石川県立美術館蔵



彩磁月桂樹撫子文花瓶
1913年 出光美術館蔵

文化の窓

会期：10月28日(土)~11月26日(日)

会場：福島県立美術館